

川原排水区 大規模雨水処理施設整備事業計画

(様式1)

項 目	内 容 ・ 施 策 等
選定理由	<p>川原排水区は、一級河川大淀川の左岸に位置する住宅街で、大淀川の水位上昇時には川原雨水幹線の吐口の樋管を閉鎖し、河川からの逆流を防止しているが、当該排水区にはポンプ場等の強制排水施設がないため、樋管閉鎖後には排水区内の雨水を河川に排水できない状況にある。</p> <p>川原排水区では、以前から浸水被害が度々発生し、平成30年の台風24号の際には床上浸水48戸、床下浸水9戸等の被害があったため雨水ポンプ場整備が急務となっている。</p>
整備目標	<p>① 本計画における対象降雨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本計画における対象降雨：70mm/hr（7年確率降雨） ・ 目標とする理由：事業計画で設定している計画降雨（70mm/hr）を適用 <p>② 目標設定</p> <ul style="list-style-type: none"> i) 生命の保護の観点：当該排水区内の浸水被害を軽減する。 ii) 都市機能の確保の観点：当該排水区内の道路冠水を軽減する。 iii) 個人財産の保護の観点：当該排水区内の家屋の浸水被害を軽減する。 iv) その他：特になし <p>③ ハード対策、ソフト対策及び自助の役割分担について</p> <ul style="list-style-type: none"> i) ハード対策 <ul style="list-style-type: none"> 施設整備により 70mm/hr（7年確率降雨）の降雨に対するポンプ場整備を行い浸水被害の軽減を図る。 ii) ソフト対策及び自助 <ul style="list-style-type: none"> 施設整備で対象とする降雨量を上回る降雨においても、下水道管理者による内水ハザードマップの公表、地域住民等による防災訓練や土嚢設置など、それぞれの主体が対策を実施することにより、浸水被害を最小限に抑える。

項 目	内 容 ・ 施 策 等			
内水ハザードマップ策定状況	有			
主な事業内容	公助	ハード対策	下水道管理者	<ul style="list-style-type: none"> 川原雨水ポンプ場 排水能力 5.0m³/s
			下水道管理者以外	<ul style="list-style-type: none"> 河川事業 大淀川 堤防整備
		ソフト対策	下水道管理者	<ul style="list-style-type: none"> 洪水（内水）ハザードマップの見直し・公表 土嚢の事前配布
			下水道管理者以外	<ul style="list-style-type: none"> 水位観測情報の提供 「市広報みやざき」への防災関連記事の掲載 災害情報メール・防災情報アプリ等の利用登録を促進 防災ラジオ活用の周知及び配布 自主防災組織への資機材配布
	自助	ハード対策	<ul style="list-style-type: none"> 土嚢の設置 	
		ソフト対策	<ul style="list-style-type: none"> 自主防災組織など各地域毎の防災訓練の実施 避難行動要支援者の個別避難支援計画書作成 防災資機材の備蓄 	

年度計画（百万円）

名称	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	計
川原雨水ポンプ場	160	626	1,357	34	2,177
計	160	626	1,357	34	2,177

項目	内容・施策等
整備効果	<p><事業評価の内容></p> <p>浸水被害の軽減便益：2,644百万円が削減される。</p> <p>B/C：1.2</p> <p>経済的内部収益率：5.6%</p> <p>※「下水道事業における費用効果分析マニュアル（令和3年4月）国土交通省水管理・国土保全局下水道部」に基づいて算定</p> <p>ソフト対策，自助の整備効果等：</p> <p>内水ハザードマップ等による情報提供や土嚢の設置等を併せて行うことにより，計画降雨（70mm/hr）を上回る降雨においても，家屋等への浸水被害を軽減する。</p>
放流先河川との調整状況	<p>河川管理者との事前協議を実施しており、雨水ポンプ場からの放流について同意を得られている。</p>
その他	<p>川原排水区の雨水ポンプ場整備は、令和3年3月30日に公表された「大淀川水系流域治水プロジェクト」にも位置付けられている。</p>

川原排水区 大規模雨水処理施設整備事業

- 宮崎市高岡町の川原排水区では、平成30年9月の台風24号で浸水被害が発生するなど、これまで度々、甚大な内水浸水被害が発生。
- 川原排水区大規模雨水処理施設整備事業により、雨水ポンプ場の整備を行い内水浸水被害の軽減を図る。

宮崎県位置図



被害状況



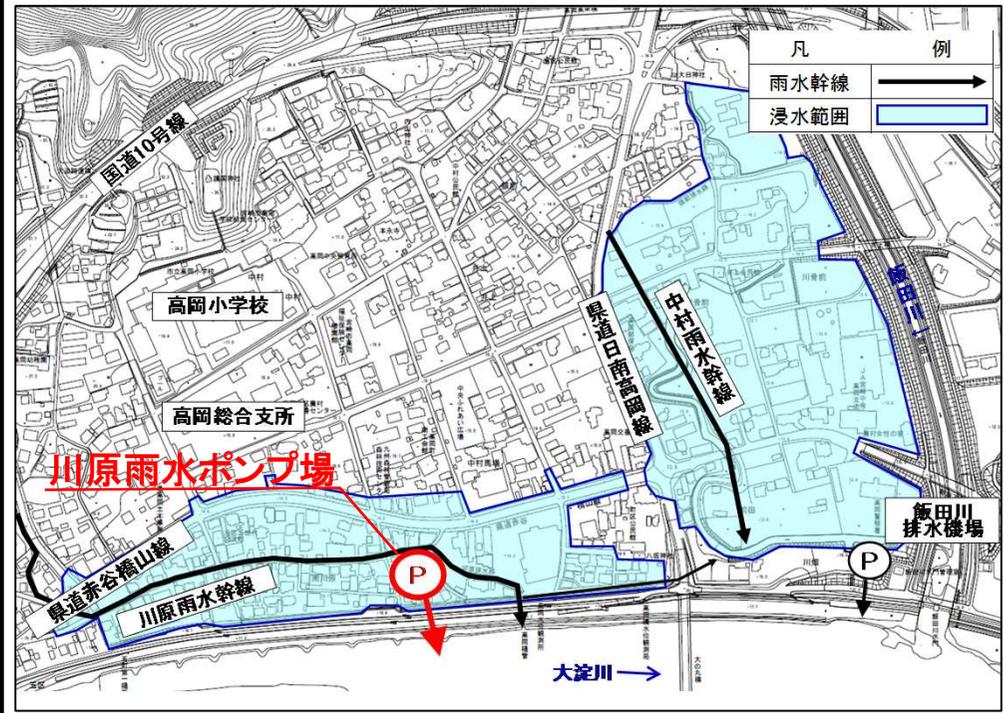
平成30年9月(台風24号)の被害状況

- 平成30年9月(台風24号)
時間最大降雨:84mm/h
床上浸水:48戸、床下浸水9戸

事業概要

- 事業内容:雨水ポンプ場整備
- 全体事業費:約22億円
- 事業期間:令和4年度~令和7年度

平成30年9月(台風24号)による浸水範囲



事業の効果

事業計画で設定している計画降雨(70mm/h)に対して雨水ポンプ場を整備し、内水浸水被害を軽減。

浸水被害の軽減便益:2,644百万円削減
B/C=1.2 経済的内部収益率:5.6%